

手外科

比較的、受診頻度の高い、手根管症候群、母指 CM 関節症、狭窄性腱鞘炎等の変性疾患については、投薬・装具・リハビリテーション等の保存的治療が無効であれば、積極的に手術を勧めています。また、骨折による外傷も、可能な限り後遺障害を軽減するべく、手術適応と思われる患者さんには、年齢・利き手かどうか等を考慮しながら診療にあたっております。

ケース 1：手根管症候群に対して、内視鏡による手根管開放術を施行。術後 1 週間程度で抜糸を行い、手の痺れの軽減が得られている。



ケース 2：母指 CM 関節症に対して、関節形成術を施行。術後 1 カ月程度のギプス固定は必要であるが、術後、疼痛は改善し、つまみ動作での痛みは解消した。



ケース3：橈骨遠位端・尺骨茎状突起骨折に対して、骨折観血的手術を施行。

可及的早期に関節可動域訓練を行い、関節拘縮の予防に努めている。

